

令和4年度 地域自治組織情報交換会 ～IT×負担軽減×担い手確保～

令和4年12月21日（水）

本日の流れ（アジェンダ）

時間	内容
14:00～	開会
14:05～	講師紹介
14:10～	事例発表① 阿品台コミュニティさま 「デジタル化推進事業（ためまっぷプロジェクト）」
14:35～	事例発表② 大野第9区さま 「デジタル回覧板導入による若い世代への区への参加促進事業」
15:00～	講演 水津陽子さま
16:00～	閉会・事務連絡

講師紹介

水津 陽子（すいづ ようこ）さま

合同会社フォーティ R & C 代表社員
地域活性化・まちづくりコンサルタント

○活動

地域資源を活かした地域ブランドづくり、観光振興、協働推進や自治会・町内会の活性化など、地域活性化・まちづくりに重点を置いた企画コンサルティング、講演、調査研究、執筆活動の他、2021年度には総務省「地域コミュニティに関する研究会」構成員を務められる。

○著書

「自治会・町内会お悩み解決実践ブック」
「自治会・町内会負担軽減&IT活用事例ブック」など
※メイン会場にて展示



質疑応答について

○メイン会場（大野支所）の方
挙手にてお知らせください。

○サテライト会場及びZOOM参加の方

ZOOM画面下部にある「リアクション」> 「手を挙げる」 ボタンをクリックしてお知らせください。



デジタル化推進事業 (ためまっぷプロジェクト)

1. 背景と目指すもの
2. アプリ「ためまっぷ阿品台」について
3. 事業計画と実績
4. ためまっぷプロジェクト収支
5. ためまっぷプロジェクトの課題

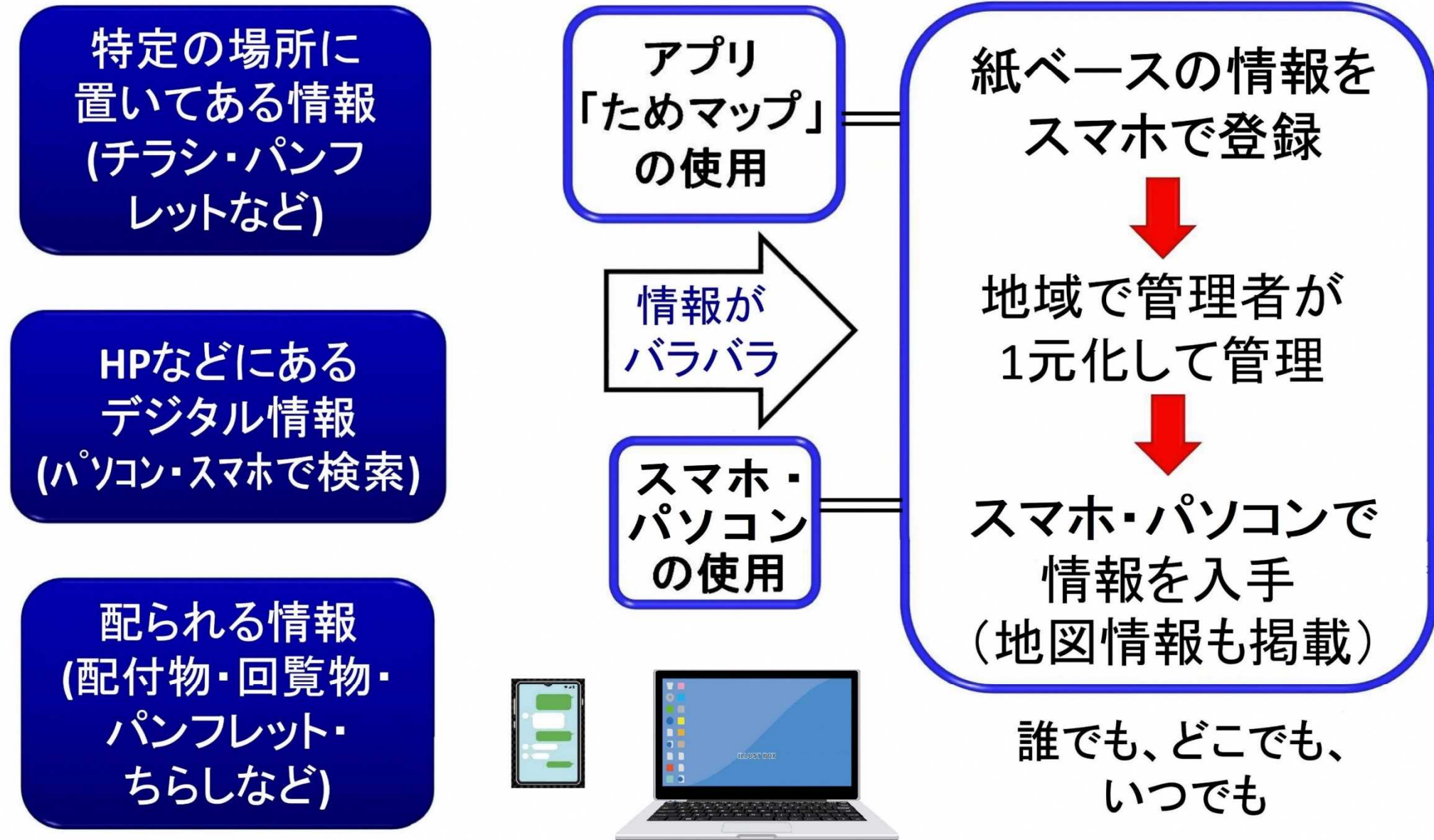
令和4年12月21日(水)
阿品台コミュニティ会長
山口 三成

1. 背景と目指すもの



背景	めざすもの(実現したいこと)
①地域行事への参加者の固定化と関心度の希薄化	①地域行事の見える化 (HP/配布/回覧物の情報一元化)
②コミュニティ活動の情報発信が総会資料他の紙媒体	② & ③住民にコミュニティ活動の迅速なデジタル情報の発信により住民の関心度と理解度の向上
③住民のコミュニティ活動に関する理解不足	
④独居者孤独死の発見が遅れる事例発生	④独居者がアプリを開くことにより、見守り管理者が安否確認できる機能

地域情報の一元化構想



2. アプリ「ためまっぷ阿品台」について



「ためまっぷ阿品台」 導入までの経緯	「ためまっぷ」を活用 している団体
・阿品台を考える会メンバーの広銀から「ためまっぷ」の紹介（令和3年2月） ・コミュニティ役員への概要説明（令和3年3月） ・まちづくりチャレンジ交付金の申請（令和3年6月） ・提案内容のプレゼン（令和3年7月） ・まちづくりチャレンジ交付金の採用（令和3年8月）	・安芸郡府中町社会福祉協議会： ためまっぷ府中町 ・神戸市：電子掲示板「ためまっぷ」 ・宮城県名取市：ためまっぷなとり ・大阪市住之江区： ためまっぷ「すみのえ情報局」 ・芦屋市：ためまっぷ芦屋 など

3. 事業計画と実績



ためまっぷ阿品台

令和3年度 その1

計 画	①住民のデジタル化に 対する意識調査	②ためまっぷ阿品台の スマホ登録方法説明	③ためまっぷ阿品台運営 規約の作成
実 績	①6月アンケート実施 ・ 配付：2,932部 ・ 回収：1,149部 (39.2%) ・ スマホ保有者： 929名(80.9%) ・ ためまっぷの認知度： 知らない1,051名 (95.2%)	② 市民センターだより 9月号でアプリをス マホのホーム画面に 登録する方法を全戸 に配布	③ 運営規約の制定 ・ 当初8月にプロジェクト メンバー(外部)に原稿 作成を依頼 ・ その後、役員会で審議 のうえ11月から運用開 始

3. 事業計画と実績



ためまっぷ阿品台

令和3年度 その2

計 画	④ 役員への使用説明会 (閲覧と投稿)の実施	⑤ 必要な機器の整備	⑥ 見守り機能追加 (独居者の安否確認)
実 績	④ 12月オンラインによる説明会 ・ ためま(株)から閲覧と投稿方法のレクチャー ・ 役員を投稿者に登録 (閲覧と投稿)	⑤ 令和4年3月タブレット2台を購入 ・ 閲覧コーナー用 (スマホを持っていない人を対象)	⑥ ためま(株)にシステム構築を提案(8月) ・ 住民アンケート結果の反映

3. 事業計画と実績

②令和4年度 その1

計画

① 閲覧コーナーの設置

② 閲覧方法説明会

実績

- ① 市民センターに閲覧コーナー設置(9月)
- ・ タブレット、パンフレット、操作方法説明書、利用規約など
 - ・ 市民センターだより9月号(閲覧コーナー設置のお知らせ)を全戸に配布



- ② 11月6日に説明会(28名参加)を実施
- ・ 市民センターだより10月号(説明会の案内)を全戸配布



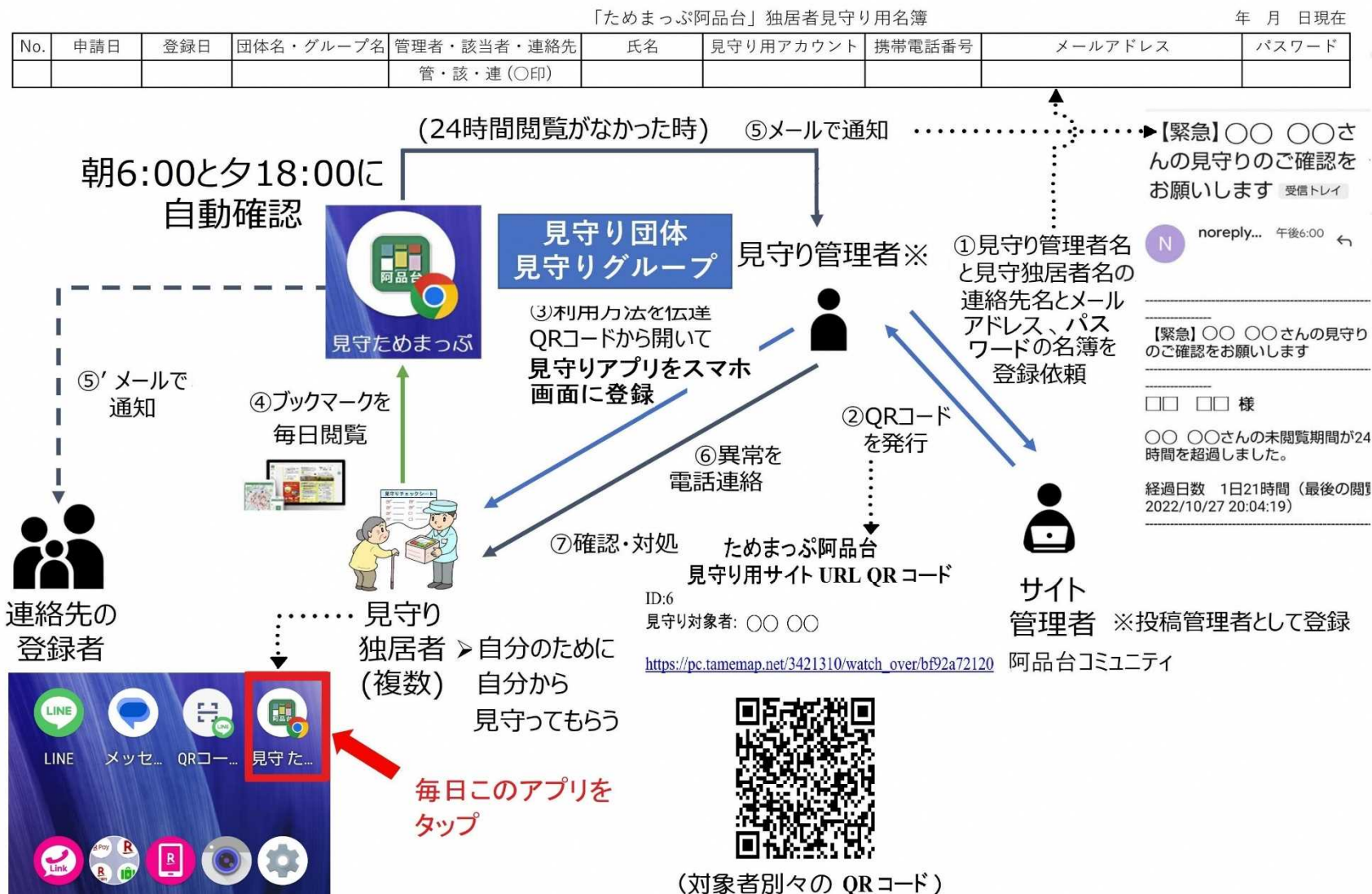
3. 事業計画と実績

② 令和4年度 その2

計画	③ 投稿方法説明会	④ 独居者見守り機能の試行	⑤ 住民アンケート
実績	③ 12月11日に市民センターで開催(10名参加) - 市民センターだより12月号を全戸に配布 - 投稿者の増加を目的	④ 8月にシステム完成 テスト試行の後12月から見守り団体・グループを募集し、試行予定	⑤ 令和5年3月に住民アンケートを実施予定 ためまっぷ阿品台の意識調査(利用状況他)

3. 事業計画と実績（令和4年度）

独居者見守りシステムのイメージ



3. 事業計画



ためまっぷ阿品台

③ 令和5年度

計
画

- ① 投稿情報の量を拡大し、内容の充実によるアプリの利用を拡大
 - ・ 投稿方法を分かり易く説明したパンフレットの配付
 - ・ 投稿方法の操作体験・説明会の開催
 - ・ 地域の主要団体(町内会・自治会、学校関係などの公共機関、市民センター登録クラブなど)のキーマンを投稿管理者に登録
- ② 夏祭り協賛企業からの寄付金収入に向けての下地づくり
 - ・ 投稿方法を分かり易く説明したパンフレットの配付により、アプリへの投稿促進
- ③ 住民アンケート実施による意識調査の実施（アプリの更新継続など）

4. ためまっぷプロジェクト収支

単位：円



	科 目	令和3 (2022) 実績	令和4 (2023) 予想	令和5 (2024) 予想
収入	①まちづくりチャレンジ交付金 ※	309,000	240,000	160,000
	②阿品台コミュニティ負担金	270	8,000	100,000
	③協賛企業寄付金	0	0	0
	合計	309,270	320,000	260,000
支出	①ためまっぷ阿品台使用料	165,000	165,000	165,000
	②運営費(報償他)	60,000	60,000	60,000
	③印刷費(説明書、アンケートなど)	18,160	25,000	10,000
	④通信費(Wi-Fi使用料他)	65,560	70,000	25,000
	合計	309,270	320,000	260,000

※ 令和6年度以降は市からの交付金は0

5. ためまっぷプロジェクトの課題

- ① 「ためまっぷ阿品台」の知名度と利用促進の向上(※)
- ② 実行委員会を実効性のある委員会となるよう工夫
(役員会でためまっぷ阿品台実行委員会のあり方を検討)
- ③ 協賛企業に「ためまっぷ阿品台」のPRを含め、連携協力を推進(寄付金の打診)

※ 令和3年4月1日～令和4.年3月31日までの12か月で全てのユーザは585名、リピーターは312名
令和4年4月1日～10月31日までの7か月間は、全てのユーザは828名、リピーターは317名(12か月換算では、全てのユーザは1419名で前年比243%、リピーターは543名で前年比174%)

廿日市市地域自治組織向け情報交換会
令和4年12月21日

＜まちづくりチャレンジ応援補助事業＞

デジタル回覧板導入による
若い世代の区への参加促進事業

大野第9区

【1】事業の目的

- ・実施を検討した背景
コミュニティ高齢化 担い手不足 回覧スピードが時代に合わない
- ・住民のニーズ
省力 大事な情報の共有 個々のライフスタイルの尊重
- ・めざすもの、実現したいこと
身近な道具や技術の活用 手間の削減 次世代区民の参加を促す

【2】事業の内容

コミュニティ内の情報伝達のデジタル化を円滑に行うため、

- (1) 集会所にWi-Fi、PC環境の整備
- (2) LINEアプリ(無料)を活用し、LINEグループの創設
- (3) 一斉eメール回覧システム(月額課金)の導入

を進めた。

スマホ等の未利用世帯のために、紙回覧はこれまで同様の仕組みを継続した。

[3] 事業実施により期待される効果

- ・回覧の効率化・迅速化
- ・区民負担の軽減
- ・LINEを活用したグループ構築による区民間コミュニケーションの増加
- ・子育て世代、働く世代の区への参加促進等
- ・災害発生時の安否確認等、連絡網の確立
- ・遠地に住む家族が区の活動状況を把握可能

[4] 実施した結果

- ・大野第9区のうち区への参加世帯数: 724世帯
- ・9区デジタル回覧LINEグループ参加者数: 31名
- ・一斉eメール型回覧配信システム参加者数: 75名
- ・その他(美化活動LINE G、食品加工LINE G): 計15名

(11月末現在)

(5) 課題

1. 参加者数を増やせていないこと
 - ・コロナ禍の影響のため勉強会・行事開催が困難
 - ・紙回覧による呼びかけが主な手段
 - ・希薄なコミュニティ内の繋がり
2. 効果と費用のバランス
 - ・一斉eメール型回覧配信システムの費用がやや重荷に
3. 作業の負担
 - ・現在は2名だけで回覧を作成しており、三役で作業の分担ができているとは言えない。
次世代の参加のハードルを下げるのために、バランスの良い体制の構築が必要。

[6] LINEアプリの活用 について

1. LINEアプリ活用方法

大野第9区のグループの1つ(宮浜地区)を試験的に作成し、参加していただいた区民に対して回覧プリントの画像を送信している。ノートという機能を使って長期間情報を保存している。

2. 効果

どこでも回覧を確認しやすい。また、参加者(一部)は紙回覧が不要となったため回覧網内の順番を飛ばして回すよう調整をされ、手間を削減なさっている。

3. 目指すもの

副区長が担当する各地区ごとのグループをつくって、最小限の手間で効率的な情報伝達できる体制とすること。そのために次世代の担い手の参加を促したい。

・LINEグループの情報交換例



【7】一斉eメール型回覧システムの導入 について

配信システムのいろいろ

総務省自治行政局市町村課が令和3年8月に「地域活動のデジタル化について」(暫定版)としてまとめた資料によると、自治会が行っているデジタル化の事例は、電子メール、ホームページ、汎用アプリ(LINE等)の活用が約1割程度あるが、自治会向け専用アプリを活用している事例は少ない。

回覧板のデジタル化には、ホームページ開設やLINEの公式アカウント、専用アプリ(結ネット)等、種々の手法があるようですが、今回、大野第9区では若い世代の区(自治会)への参加促進を念頭に、高齢者でも馴染みやすい電子メールの一斉配信システム「**e-メッセージ回覧板**」を利用することとした。

「e-メッセージ 回覧板[®]」とは

全国の学校・自治会で利用される(株)アットシステム社の一斉メール配信システム

■システム

- ・Webシステムを経由しない「メール送受信のみ」の方式
- ・緊急時のデータ集中に強く、システムダウンの可能性が低い

■管理者

- ・メールアドレスの管理が不要
- ・携帯、PC等からメール機能で配信可能

■利用者

- ・利用者登録が、Webにアクセスすることなくメール送受信だけ
- ・受信確認機能で、安否・状況等をメール返信可能

■費用

- ・月額利用料 500世帯未満 4,400円、1,000世帯未満 7,700円(税込)

運用イメージ

管理者側

(1) グループ設定

グループ別にメールアドレスが設定されるので、アドレスを指定して利用者に登録を依頼する。

(3) 回覧メールを作成

システムにログインしてメールを作成
画像(jpg)、文書(pdf) はデータをアップロードすると本文にURLが挿入される。

(4) 回覧メールを送信

配信先グループを選択して一斉配信する。



利用者側

(2) 利用者登録

指定されたアドレス (QRコード読み取り) に、組名、氏名をメールする



宛先: 9ku-ent@...jp
本文: ○○組 大野太郎

(5) 利用者がメール受信

デジタル回覧板が受信される。
画像、文書はURLをクリック (タップ) して見る。
・ 見たいときに見られる。
・ 過去の配信は配信履歴から閲覧可
・ 必要により返信可能



件名: (大野第9区デジタル回覧板)
本文: こちらは大野第9区広報部会です。デジタル回覧板(回覧配信16)を配信します。

(1) 「心にゆとりの9区通信 11月号」

(2) 「ふれあいサロンの案内」

[https://pub.e-msg... jpg](https://pub.e-msg...jpg)

▪ お試し運用 R4年4月

登録操作、使い勝手、機能などの確認のため、無料期間中に団体役員等の希望者にお試し運用として、テストメールや紙回覧のjpgファイル等を一齐配信し、受信状況などについてアンケートを依頼した。

メールアドレス登録者数：11名 配信期間：4/25～5/5 7回配信

お試し運用アンケート結果

- 1 メールアドレスの登録は、QRコードにより容易に早期登録できた。
- 2 メール配信に気付かず読み遅れたという例は僅かで、殆どが配信日に確認された。
- 3 使用端末は殆どの方がスマホを使用
- 4 スマホ機種、設定によっては、pdfファイルよりもjpgファイルの方が見やすい。
- 5 総合評価（読み易さ）は殆ど◎か○で、▽×はなく高評価であった。

▪ 体験運用 R4年6月

お試し運用が高評価であったため、対象を全区民に広げ体験希望者を募集し、実運用への浸透を図った。

メールアドレス登録者数：42名 配信期間：6/1～6/28 10回配信

・ 実運用の実施状況

お試し運用、体験運用を経てR4年8月から実運用を開始した。

令和4年11月末時点で、利用登録アドレス数は78（区民世帯数の約1割）

実運用配信数

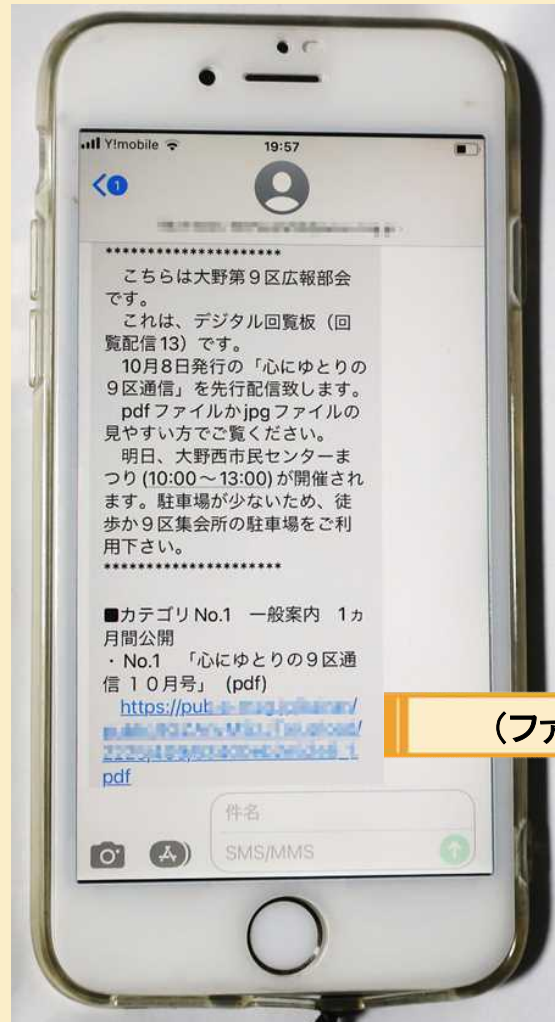
デジタル回覧板 18回

e-メッセージ（一斉清掃の実施/中止の当日通知） 1回

実運用開始後、使用感や意見を返信するようお願いするが、返信は得られていない。

個別に感想を訊くと、「いつでも回覧板が見られてとても便利」などとの話を聞く。

■e-メッセージ回覧板の配信例



（ファイルの展開）



[8] 今後について

- 参加者数増加促進のため、募集回覧のほか行事開催時や個別に声かけを実施（世帯主以外に、家族や遠地に住む第2世代も対象に）
- 災害発生時の安否確認等、連絡網の模擬訓練を実施
- 一斉eメール型回覧配信システムの利用中止の可能性（重い費用負担）
- 回覧データ作成の役割分担
- **要望**・・・地域活動のデジタル化継続に要する費用の公的補助

廿日市公式LINEによる申請等のサービス開始について

「いつでも市役所 どこでも窓口」はじまっています！



タップすると市のお知らせ、イベント、観光情報を見ることができます

災害などの緊急情報も届きます

New

水道の開閉栓の申請

New

マイナンバーカード受け取り予約

道路・公園の損傷を通報
写真と位置情報で簡単通報！

New

友だち登録がまだの人は登録をお願いします

友だち追加方法



LINEホーム画面の右上にある友だち追加アイコンを押す



①二次元コードから友だち登録



②ID検索で登録

「@hatsukaichicity」

左の赤枠を参考に友だち登録すると利用できます

みなさまの利便性が高まる取組を拡充中です

公開時期	公開したサービス
7月	水道の開閉栓の申請 道路・公園などの損傷の通報 マイナンバーカードの受取予約
8月	広報はつかいち配布希望・停止の申請
9月	空き家（老朽化など）の通報
10月	定期救命講習の受講申請、デジタル月間限定クイズ
11月	住民票の写し、住民票記載事項証明書の請求
令和5年～	更に拡充していきます

市民活動 なんでも相談日



市民活動や NPO を
応援します！

経験豊富なアドバイザーが、市民活動や社会貢献活動に関する疑問や悩みにお答えします。活動中での小さな悩みから、団体運営、組織作り、ネットワークづくりやNPO設立・運営など、何でもご相談ください。(オンラインでも可能)



アドバイザー山本 祐二さん

ひろしま NPO センター常務理事。
NPO 中間支援組織のあり方や、市民活動向けの助成金、NPO 設立相談など、市民活動に関して多分野に精通。

時間	13時から16時まで ※ 原則予約制です。
会場	市民活動センター1階 相談コーナー
申込み 問合せ	電話、FAX、メールで市民活動センター(協働推進課)までお申込ください。 TEL 0829-32-3810 FAX 0829-32-3742  協働推進課メールアドレス kyodosuishin@city.hatsukaichi.lg.jp  市民活動センターホームページ http://www.hatnet.jp

1月 5日(木)
1月 12日(木)
1月 26日(木)

2月 2日(木)
2月 9日(木)

3月 9日(木)
3月 23日(木)

アンケート協力をお願い

【回答方法】

①スマートフォンの場合

カメラを起動し、右のQRコードを読み込んでアクセス

②パソコンの場合

下記のWEBリンクからアクセス

URL : <https://forms.gle/xdgWbXnwJ8Q4TCM68>

※事務局よりチャットでWEBリンクを送付します



↑アンケートフォーム
はこちら！

【回答期限】

12/31 (土) まで

※QRコードとWEBリンクは、後日市HPに掲載します



**お疲れ様でした。
お気をつけてお帰りください。**